

第1回 デ・レーケ導流堤に関する検討会  
＜検討事項の整理＞

(1) 導流堤の解体方法

①解体範囲

鋼管矢板基礎の施工を考慮し、約 30m(縦断方向)×約 20m(横断方向)の解体が必要。※ただし寸法等は、詳細設計で変更有

②解体方法の例

表面の石積みは空積みのため、人力により解体。内部構造区間は構造を詳細に確認するため、小型ブロックハウ及び人力により掘削。

(2) 導流堤の調査記録方法

①構造の調査

鋼管矢板杭で仮締め切り後、石積み解体及び内部掘削を実施。内部構造は掘削進捗に合わせ記録。

②内部構造の調査範囲

導流堤のボーリング調査から現地盤（砂層）までを確認。

(3) 導流堤の復元方法

①復元材料

原則として既設石積み及び内部材料にて復元。

②石積みの積み方

既設の石積みは、不規則な箇所と規則的な箇所が混石。

③橋脚と石積みの境界部処理

境界部のモルタル等による充填の有無。

④復元方法（過去の事例）

昨年7月の豪雨で流木が導流堤に衝突し、一部崩壊。福岡県が補修を実施。

(4) 解体した導流堤の保管（展示）活用の可能性

①保管（展示）方法

導流堤解体に伴う調査記録により、土木遺産建造技術（粗朶沈床工法等）の展示が可能。

②保管（展示）候補箇所

保管（展示）規模、形式の基本的考えに整合する候補箇所が必要。